

◆8月のCP市場動向

8月のCP新規発行額は約6兆3,000億円で、期落ち(6兆1,000億円:当月発行分含む)を5月以降連続して上回る結果となった(除く、ABCP・金融機関発行CP)。

一般事業法人のCP発行による資金調達相変わらず旺盛で、例年夏場には資金需要が減少する傾向にある電力・ガスなども微減に止まり、電気機器と並び1兆円の大台を維持する結果となった。業種別に見ると、輸送機器・建設会社が大きく残高を伸ばし、石油会社・鉄鋼・金属・非鉄金属といった原材料関連のメーカーも若干減少したものの、高い水準での残高が維持されていた。

発行レートは、発行増にもかかわらず運用ニーズが旺盛なことも影響して、月間を通じて弱含み横這いで推移した。日銀が、長めのタームでオペを実施し厚めの供給を行なっていることから金利環境が極めて落ち着いており、比較的運用妙味のあるCP運用に動く投資家が徐々に増加しているのではないかと見られる。

発行レートは、a-1格銘柄の期内物では0.50%台後半から0.60%台半ばの出合い(9月末日では、0.60%台半ばから0.70%割れ)。期越物では0.60%台前半~0.70%台前半の出合いであった。その他金融は、一般企業との乖離幅が徐々に縮小する動きとなっていた。

《格付け別の発行レート》

8月のCPLレートレンジ

単位 %

格付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
格付 a-1+(オペ適格)	0.560% ~ 0.646%	0.608% ~ 0.680%	0.623% ~ 0.685%
格付 a-1(オペ適格)	0.560% ~ 0.681%	0.640% ~ 0.749%	0.644% ~ 0.850%
格付 a-1+(リース銘柄)	0.560% ~ 0.623%	0.620% ~ 0.679%	0.650% ~
格付 a-1(リース銘柄)	0.640% ~ 0.720%	0.710% ~ 0.800%	0.702% ~ 0.800%
格付 a-2	0.644% ~ 0.765%	0.700% ~ ケ1.200%	0.750% ~ ケ1.50%

《CP オペ》

8月のオペ実施は見送られた。

《ABCP》

8月末のABCP発行残高は、期中では珍しく約4兆339億円と前月比約1,470億円増加。前年同月(約3兆9,495億円)比でも、昨年12月以来久しぶりに約834億円増加となった。

《短期社債残高》

証券保管振替機構発表によると、短期社債の8月末発行残高は22兆5,325.01億円となった。一般事業法人発行CPが前月比1,179億円減、その他金融発行分が322億円減となったが、金融機関発行CPのうち証券会社が1,853億円増加したことや、ABCPが1,469億円増加したことから、前月比約1,276億円の増加となった。

発行登録企業481社中、既発行企業は出光クレジット・藤和不動産が加わり、

455社。

(注) 先月の既発行企業は、451社から453社に訂正。

《現先市場》

月中現先レートは、インターバンク・レポ金利(S/N物)が0.50%台前半に比べ、やや高く月中を通じて常時5~8BP程度上回る0.50%台後半の水準であったが、先月と比較すると総じて落ち着いた出合いであった。

◆9月のCP市場動向

9月中のCP償還額は、6兆4,000億円弱となっていて、今年に入ってから連月になるが前年(約6兆円)を上回る金額となっている(除く金融機関発行CP・ABCP)。事業法人の資金調達ニーズは、幅広い業種で高まっている上調達コストが借り入れ等に比べ低利であり、今後も増加すると思われる。しかし、今月は中間決算月越えの有利子負債圧縮を睨み、期落ち対比一割程度の減額発行となるのではないかと。CP発行レートは、先月から弱含み地合いが継続しているが、月半ば以降発行増が際立つようになると、6月末のイメージもあり上昇地合いも予想される。

一般事業法人では、期内物は0.50%台後半から0.65%前後の出合い、期越物は0.60%台前半から0.70%台前半の出合い。リース銘柄の期越物は、0.70%台前半から0.80%割れの出合いをそれぞれ予想する。

《CPオペ》

CP オペは、期末越えの月に当ることから、資金需給により実施の可能性が想定される。

《現先市場》

足元現先レートは極めて落ち着いており、0.50%台後半から0.60%割れとなっている(9/08現在)。月後半から、発行増に伴い荷もたれ感から現先レートはやや上昇し、0.60%近辺から0.65%前後で推移すると思われる。

参考資料

業種別残高内訳

			単位: 億円
業 種	8月末残高	7月末残高	増減
事業法人	86,153	87,332	▲ 1,179
その他金融	69,738	70,060	▲ 322
金融機関	29,095	27,787	1,308
(銀行等	15,885	16,430	▲ 545)
(証券	13,210	11,357	1,853)
ABCP	40,339	38,870	1,469
計	225,325	224,049	1,276

(注: 買入消却分含む)

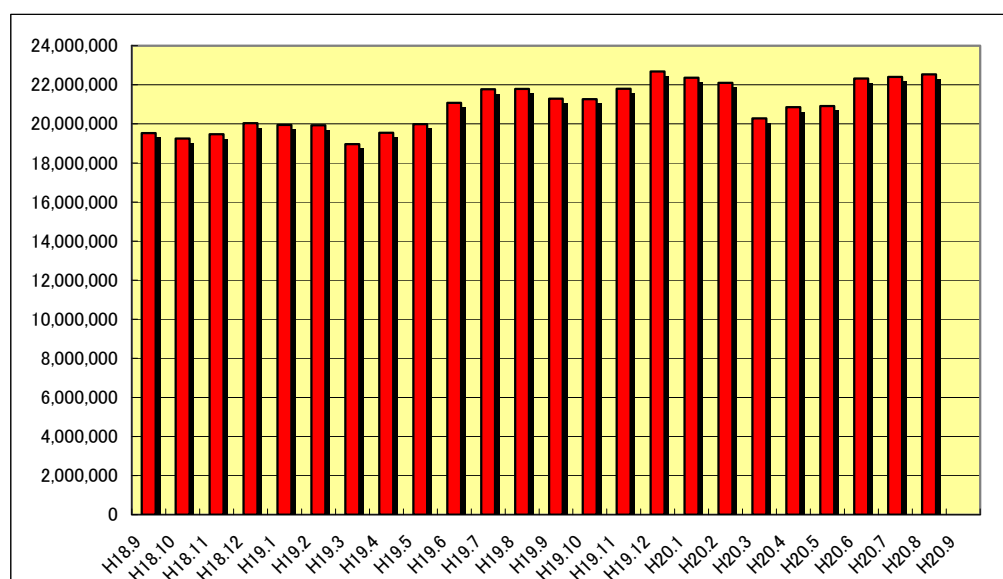
短期社債月末残高 (H18年8月～H20年7月)

■ 短期社債月末発行残高

8月末発行残高：22兆5,525.01億円

発行登録企業：481社（発行実績あり453社）(単位：百万円)

(過去2年間の残高を表示)



7月末発行残高ベスト20

(単位：百万円)

順位	発行企業名	8月末残高
1	三菱UFJリース	896,700
2	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	821,500
3	オリックス	789,700
4	三井住友ファイナンス&リース	711,900
5	エイペックス・ファンディングコーポレーション	657,100
6	新日本石油	500,000
7	日産自動車	495,000
8	三菱商事	467,000
9	大和証券SMBC	443,200
10	みずほコーポレート銀行	421,100
11	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	361,180
12	新日本製鉄	351,000
13	東京リース	349,300
14	興銀リース	344,800
15	東京電力	340,000
16	東芝	335,000
17	フォレスト・コーポレーション	313,225
18	芙蓉総合リース	307,100
19	住友信託	301,900
20	日産フィナンシャルサービス	300,000

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪府中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会